

資料と公共性 : 2019年度研究成果年次報告書

岡崎, 敦

九州大学大学院人文科学研究院 : 教授

藤川, 隆男

大阪大学大学院人文科学研究科 : 教授

市澤, 哲

神戸大学大学院人文科学研究科 : 教授

松田, 陽

東京大学大学院人文社会系研究科 : 准教授

他

<https://doi.org/10.15017/2557155>

出版情報 : 2020-03-06. 九州大学大学院人文科学研究院

バージョン :

権利関係 :

目次

目次.....	I
0. 「資料と公共性」共同研究の趣旨と 2019 年度の活動.....	1
1. シンポジウム「公共歴史学、公共考古学の射程 ー歴史実践と資料ー」	3
藤川 隆男 「21 世紀の歴史学とパブリック ーIMBY/【インターネット・アニメ・モノ・アート・デジタル】・ヒストリーー」	4
岡崎 敦 「公共歴史学とはなにか」	18
市澤 哲 「藤川報告へのコメント」	27
2. 研究会 「パブリックアーケオロジーの射程：背景、成立、現状」	29
松田 陽 「パブリックアーケオロジーと公共性」	30
岡村 勝行 「考古資料と公共性 ー現代考古学の日欧比較から考えるー」	40
中島 康比古「パブリックアーケオロジーを参照しながらアーカイブズ（学）について考える」	47
3. 講演会 「フランスにおけるアーキビスト養成（過去、現在、未来）：学問的、社会的および政治的課題」	63

II

オリヴィエ・ボンセ	「フランスにおけるアーキビスト養成 —過去、現在、未来—」	65
清原 和之	「イギリスにおける情報管理専門職（アーキビスト／レコード・マネジ ャー）の現代の変容」	85
岡崎 敦	「フランス共和国における アーカイブズおよびアーキビスト養成制度」	97
4. 個別論考		
村野 正景	「「学校所在資料」という概念の意義 —資料のステークホルダーの把握に向けた概念準備—」	117

執筆者紹介